

第2回幹事会議事録

日 時 48年6月29日(金) 11:00~17:30

場 所 東京本部第2会議室

出席者 百田, 塚田, 中嶋, 飯島, 五十嵐, 久武, 坂田, 大野, 西村
議 事

1. 報告事項

- a.. 核融合炉調査専門部会との関係(西村)
- b.. 2年報の分担(中嶋, 西村)
- c.. ポローニアのFPパネルの現状(西村)
- d.. EANDCの準備会の現状(塚田)

2. 次回本委員会の議題に関連する事項

- a.. パリのシンポジウムに出席した更田氏の報告がある。坂井氏(核研)
が興味あるなら同氏に連絡する。
- b.. Decay heat の問題をどこかでやるべきであるという新提案

(飯島)

来年3月まではad hocか?

これに関係して高速炉の γ -heatingの問題も提案したらどうか
という意見もあった。(大竹氏, 岩城氏に依頼する)

- c.. Integral data testをやって, 評価データを検討する仕事を
委内でやりたい。(飯島, 神田氏提案)

3. JEENDL1次版の考え方

資料原案にもとづき検討し, 各幹事から述べられた意見をもりこんで原
案を修正し, 本委員会の討論にのせることになった。

4. 長期計画

現在実施している仕事を継続, 完成させるのが先決である。この観点か
ら長期計画案をつくる。すなわち, 各専門部会でやっていることを仕上げ

ることに重点をおくため、各テーマを列挙し、さらに予想される新しい重要なテーマを追加し、検討していく。

長期計画をつくるのは、テーマの進め方を考えるためである。実施する以上はきちんとやる。そのためには、興味本位だけでスタートせず、選択して、委員会として authorize する。

スケジュールを考える時、スケジュールに遅れているというのは、何に對して遅れているというのか、たとえば、J E N D L - 1 の完成時とか、実証炉の設計に問い合わせるとかが、スケジュールを決定する重要な要因となる。

以 上